

JAえちご中越 さんとう地域「わたぼうし」栽培暦

契約栽培もち米生産者部会

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月																																		
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25																														
出穂前後日数																-22					-12					0					+36																													
生育ステージ						【作業目安】 4月 3日					《稚苗の規格》 草丈 12.0cm 葉齢 2.0~2.3葉 第1葉鞘長 3.0~3.5cm 緑化終了時の苗丈めやす 3.0~3.5cm					無駄な茎をとり過ぎない 60本 12cm					470本 430本 350本 稈長 75cm m ² 穂数 350本					的確な生育診断による適切な穗肥施用 病害虫防除の徹底 (イネ墨黒穂病・いもち病・紋枯病・カメムシ)					気象予報と出穂以降の積算温度 にもとづく「刈取計画の策定」																													
	浸種開始 4月 13日					催芽 4月 15日										播種 4月 15日					育苗日数は20日程度					田植え 5月 5日					中干し開始 6月 5日~					最高分け期 6月 25日					1回目穗肥 7月 7日					2回目穗肥 7月 17日					出穂期 7月 29日					収穫期 9月 3日~				
病害虫防除	【いもち病予防】 ルーチンブライト箱粒剤 播種時~移植当日					除草剤散布					“補植苗”を早期に撤去する					6月中旬~ 葉いもち病 [早期発見 早期防除]					【イネ墨黒穂病・いもち病防除】 ★必須★ オリブライト粒剤・豆つぶ剤 出穂前20~10日 (7月9~19日) いもち病緊急防除: ブラシング剤 (収穫7日前まで)					【カメムシ防除】 スタークル剤 穂ぞるい期					収穫前のほ場でイネ墨黒穂病害粒の有無確認!! 午後からの刈り取り・刈り分け徹底!																													
水管理	田植後→3~4cmのやや深水で植え傷み回避 活着後→2~3cmのやや浅水で早期分けづ促進 除草剤散布時→湛水状態(水深5~6cm)で散布 中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止																				生育量を把握して遅れずに!! 小ヒビが入る程度になったら終了					飽水管理の継続 ⇌ タメ水厳禁 (異常高温時には一時湛水)					フーンの発生時: 地域の水利条件等に応じた 夜間水温を下げるこまめな水管理の徹底					出穂後 25日以降に 最終かん水を実施!!					落水期																			
栽培管理のポイント	Point 1 ~適正な作業計画の策定により健苗を育成します~					Point 2 ~適期田植えの実践で初期生育を確保します~					Point 3 ~生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します~					Point 4 ~病害虫防除と水管理の徹底で稻体機能を維持します~					Point 5 ~適切な生育診断による穗肥施用→品質・収量を確保します~					Point 6 ~適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます~					Point 1 ~適正な作業計画の策定により健苗を育成します~					Point 2 ~適期田植えの実践で初期生育を確保します~					Point 3 ~生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します~					Point 4 ~病害虫防除と水管理の徹底で稻体機能を維持します~					Point 5 ~適切な生育診断による穗肥施用→品質・収量を確保します~					Point 6 ~適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます~				
	① 適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成					① 移植前追肥(べんとう肥)の施用→活着・初期生育を促進					① 目標穂数の80% (280本/m ² =1株あたり16本)を確保してから→適期中干し開始					① ★【必須】★イネ墨黒穂病の予防防除(オリブライト剤)を徹底					① 出穂後 25日以降に最終かん水を入水(落水は出穂28日以降)					② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続(強い中干し・タメ水→厳禁)					~異常高温時には一時湛水)					② 2回目の穗肥は確実に施用する					③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穗肥を施肥(極端な多肥栽培を控える→病害発生・被害の抑制)																			
	② 土壤診断結果にもとづく土づくり資材(有機質・ケイ酸)の施用					② 田植期のめやすは5月5日					② 全ほ場で溝切り(10条: 3mに1本)→速やかにかん水・排水管理					③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になら終了~遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行					④ 早期に土づくりを実施する					⑤ 土づくりを適度に実施する					⑥ 土づくりを適度に実施する					⑦ 土づくりを適度に実施する																								
	③ 作土深15cmの確保~ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥→基肥N施肥量のめやす: 「10a当たり4.0~5.0kg」→極端な多肥栽培を避ける					③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除(箱施用剤)を徹底→補植苗を速やかに撤去					④ 早期に土づくりを実施する					⑤ 土づくりを適度に実施する					⑥ 土づくりを適度に実施する					⑦ 土づくりを適度に実施する					⑧ 土づくりを適度に実施する																													
	《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)					《生育のめやす》					《品質向上・収量確保目標》					《品種特性》					《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)					《生育のめやす》																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>時期</th> <th>N成分</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土づくり</td> <td>収穫後</td> <td>—</td> <td>稻わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材</td> </tr> <tr> <td>基 肥</td> <td>~田植え</td> <td>4.0~5.0</td> <td>地力に応じて</td> </tr> <tr> <td>穗肥1</td> <td>出穂22~20日前</td> <td>1.0~1.5</td> <td>遅れずに施肥~穂数確保</td> </tr> <tr> <td>穗肥2</td> <td>出穂12~10日前</td> <td>1.0~1.5</td> <td>しっかり施肥~登熟向上</td> </tr> <tr> <td>合 計</td</td></tr></tbody></table>	区分	時期	N成分	備考	土づくり	収穫後	—	稻わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材	基 肥	~田植え	4.0~5.0	地力に応じて	穗肥1	出穂22~20日前	1.0~1.5	遅れずに施肥~穂数確保	穗肥2	出穂12~10日前	1.0~1.5	しっかり施肥~登熟向上	合 計</td																																						
区分	時期	N成分	備考																																																									
土づくり	収穫後	—	稻わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材																																																									
基 肥	~田植え	4.0~5.0	地力に応じて																																																									
穗肥1	出穂22~20日前	1.0~1.5	遅れずに施肥~穂数確保																																																									
穗肥2	出穂12~10日前	1.0~1.5	しっかり施肥~登熟向上																																																									
合 計</td																																																												